

つばさ 翼

No.85

発行日 令和7年1月

尾道市立総合医療センター
公立みつぎ総合病院

〒722-0393

広島県尾道市御調町124番地

TEL 0848-76-1111 (代表)

FAX 0848-76-1112

<http://www.mitsugibyoin.com>

～2025年問題に向けて更なる地域包括ケアの実践と構築を～

新年明けましておめでとうございます。今年度4月よりリハビリ部次長の任を拝しております。リハビリテーション部療法士総勢83名共々、近隣地域住民の皆さまのための病院づくりに邁進してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



リハビリ部 次長
緒方 博子

さて2025年に突入しましたが、以前からわが国では国全体の課題として2025年問題に対する様々な方策が講じられてきました。2025年には団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となることから、大幅な人口比率の変化が生じることが見込まれ、雇用等の社会的な問題の他、医療や介護分野にも影響が及ぶと言われていています。高齢者比率が高まりますと医療や介護の需要が高まりますし、その需要の高まりとともに医療や介護の連携がますます必要かつ重要になってきます。そのため2025年問題の方策の一つに「地域包括ケアシステム」の構築がありました。国は2025年に至るまで「地域包括ケアシステム」の構築を進めてきており、それは皆さまご存知の通り、当院が起源であります。今では全国にその概念が理解され広がり、各々の自治体等でシステムの構築が進みました。改めて解説しますと「地域包括ケアシステム」とは重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムを指します。当院リハビリテーション部の基本方針の一つには地域包括ケアの一翼を担うということがあり、私たちは医療・介護分野等において急性期、回復期、生活期、終末期に至るまで一貫した関わりを持っています。多様性のある患者さまの状態、状況に合わせた目標に向かい患者さまの生活の再建に寄り添い、支援させていただいていると同時に多職種協働の下で「地域包括ケアシステム」構築に寄与しているものと自負しております。

2025年問題は今年に解決するものではなく、今後人口減少、医療従事者減少等が更に懸念されます。今後も引き続き地域包括ケアを実践し、そのシステム構築を時代に合わせて推進していくことが医療・介護体制を守り、より良い医療・介護が提供できることになり、持続可能な病院づくりに繋がるものと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

近年救急に使用される機器を紹介しようと筆をとったものの、もっと大切なことがあると気づきました。

話は少し逸れて、『過去最大級の台風』

夏が来ると報道が不安をあおるので、防災リュックを下駄箱の上にすえつけたかも知れません。備えあれば憂いなし。でも、用が無いに越したことなし。

天変地異、自然災害は怖いものですが、無慈悲な災厄はわれわれのなかでも起こる。一家でいちばん元気なはずの父親が息をしていないのを娘がみつけ、救急搬送。蘇生の甲斐なく処置室で亡くなった。待合の隅で、泣き終わってもしゃくり上げるその子の肩を抱き、奥さんは茫然と天井をみつめている。

急に、自分の心臓が止まり、意識消失。どうせ助からないから放っておけと強がる人もいるかもしれない。ところが家族に起きるとどうでしょう。食後の団らん、お茶を湯呑に注ぎ、それを机の向こうに渡そうとした。ご主人がありがとうと手を出した瞬間、彼が白目をむいて椅子から崩れ落ちたら…。あなたは、頭のなかで真っ白になるのが、手も膝も震えようが、勇気を奮いなんとかしようとするはず。実際、救命成功例のほとんどは、誰かの前で倒れ、そして、直ちに適切な処置を受けています。

ドラマを目の当りにしたとき。なるべく落ち着き確実にすべきことを挙げていきます。

読み終えたら、防災リュックの中身のように、もういちど確認し脳に保管しておいて下さい。

さあ、《突然ご家族が倒れて、様子がおかしい》

ステップ1: 怖くてもその場を離れず、そのひとを仰向けにし、意識と呼吸の有無をみる。なければ心臓停止と判断。意識がなければ、弱い呼吸があっても心停止と考える。

ステップ2: 大声で人を集める。すぐに119番。携帯電話も119でOK。「とにかく早く来て」とあせる気持ちはわかるが、冷静に消防センターからの質問に答える。

ステップ3: **(最も大切!)** なるべく早く、心臓マッサージ。

ステップ4: 救急隊が到着するまで心臓マッサージ(胸骨圧迫)を継続。同居のひとや近所のひとの助けがあれば、一人が胸骨圧迫して、もう一人が胸骨圧迫30回あたり2回の割合で人工呼吸を行う。一人だけなら、15分もすれば救急車は到着するのでそれまで心臓マッサージを行う。

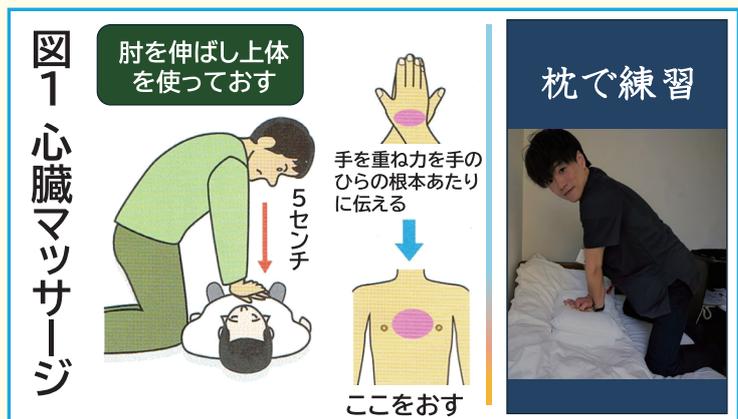
(2番目に大切) ピーパーが聞こえても安心して止めず隊員に交代しましょうといわれるまで続けて下さい。

【心臓マッサージ(図1)】

実際の手技を説明します。まずは、倒れた人をあおむけに。乳首と乳首の真ん中に胸骨という縦長の骨があるので、両手を重ねて手のひらを胸骨に当て、上におおいかぶさる姿勢をとる。両肘を伸ばし上半身の体重を乗せるように手のひらの根元で胸骨をおします。5cmくらい押し込んで、力を弱める。これを1秒に2回、すなわち**1分に100から120回**の速さで繰り返す。圧迫により胸骨の下にある心臓がおしつぶされ、その際になかの血液が全身に送られる。圧迫を弱めると反動で心臓が膨らんで血液がなかに流れこむ。繰り返すにより血液の循環が生まれる。

【心臓マッサージの練習】

相手は大きく硬めの枕がよいでしょう。小さければ2つ重ねます。これを縦に置き人間の胸部にみたく



No.62

救命の最前線はあなたによる 心臓マッサージ



副院長
診療部長・外科部長 **菅原 由至**
(尾三圏域での救急救命士との連絡・指示を担当)

る。脇に両膝をついて構え、乳首の中間を枕の真ん中とイメージし、両手を当てる。両肘をしっかりと伸ばして深さ5cmのつもりでおす。まずは5分間と決めて上記の圧迫動作を繰り返してみましょう。肘の曲げ伸ばし動作でおすとすぐに疲れるので、上体の自重を、しっかり伸ばした肘から手に伝えるようにおす。5分でもしんどいので、本番は休みなく続けなければならないとすると、訓練が要るといわれてもうなずけるとおもいます。

ここからは救命処置に用いる機器の紹介です。

自動体外式除細動器(図2、一般的にAEDと呼ぶ)。除細動とは、心臓麻痺の原因となる不整脈を電気ショックにより停止することを意味する。本器は心電図の解析を自動で行い、必要なら電気ショックを加える。20年前に一般使用が解禁。現在、公共施設や商業施設をはじめ全国69万台が設置され、さほど目立たないが掲示がある。また、近隣の設置場所の検索に日本全国AEDマップなどのアプリがあるが、建物が密集する都市部でないかぎり役立ちそうにない。自治体によっては(尾道は未)、消防指令センターが登録ボランティアに心肺停止事象の発生と直近設置の情報提供を行うアプリを運用する。

図2の右のように、蓋を開け電源を入れると『パッドを胸に装着して下さい』と音声指示がある。胸の2か所(右上、左下)にパッドを張ると電気ショック要か判断し始める。必要なら、『ショックボタンを押して下さい』と指示があり、それに従う。ボタンを押すと2つのパッドの間に電流が流れ心臓へ電気ショックが掛かる。ショックも自動の機器もある。

要注意ですが、作動しても必ず治るわけではないので、意識が戻らないかぎり、音声指示に従いつつ救急隊到着まで心臓マッサージを続けて下さい。

図2 致命的な不整脈を止める器械 自動体外式除細動器(AED)



操作手順:
赤やオレンジの箱を開ける→電源ボタンを押す→パッドを右胸と左わき腹に貼る
→音声指示に従い操作→指示があればショックボタンを押す

図3 自動で心臓マッサージをする機械
商品名:LUCAS(ルーカス)



つぎは、心マッサージの機械。図3はLUCAS(ルーカス)と呼ぶベルギーで開発されたもの。主に救急隊あるいは医療従事者のみが使用し、一般は操作できない。アーチ構造の頂上にある駆動装置から先に大吸盤の付いた短アームが垂れる。背板を差し挿れてアーチと接合すると、胸骨の位置に吸盤がくる。吸盤を皮膚に圧着固定し電源を入れると、圧迫を繰り返す。上の練習のように、胸骨圧迫に体力勝負の難点は否めない。

い。他方、救急隊には、電話連絡、人工呼吸、点滴など幾多の作業が求められる。限られた人員、時間、空間の条件での活動に、動力機器の活用が許容される事情をご理解いただけたらと思います。

最後に繰り返しますが、なんといっても、素早い連絡、そして心臓マッサージの取り掛かりを忘れないで下さい。そのための日頃の心構えです。

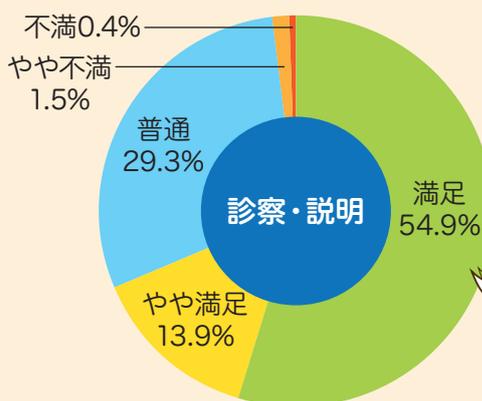
患者さまアンケート結果

令和6年9月に行いました患者さまアンケート調査の集計結果をお知らせします。
 外来329名、入院118名の方に回答していただきました。
 アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

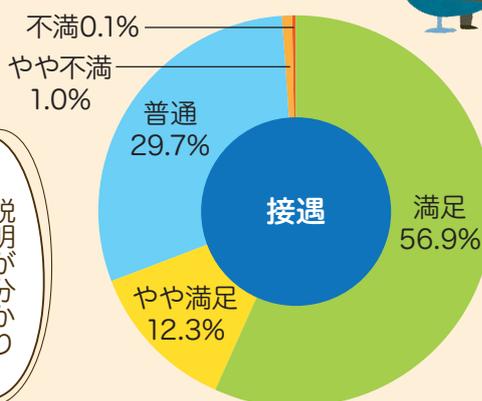


外 来

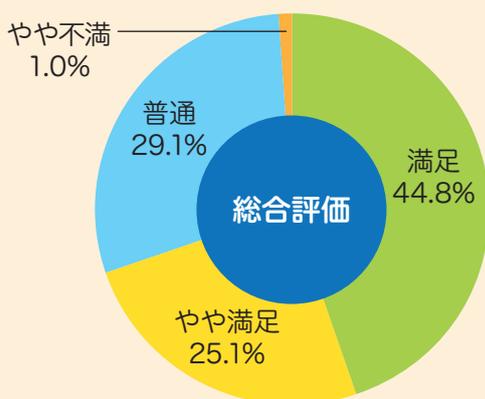
●職員の接遇等について



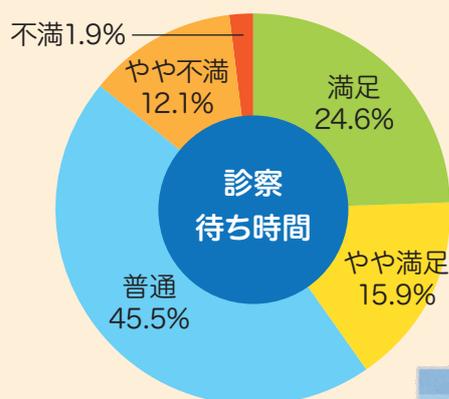
説明が分かりやすく
 良かったです。



●総合評価



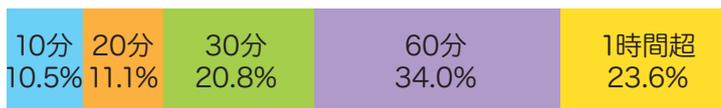
●診察待ち時間について



患者さまの声を反映しました

「Wi-Fi環境を整えてほしい」とのご意見をいただき、病院1階の待合スペースにWi-Fi環境を整備しました。
 利用者さまからは好評を得ているところです。
 これからも患者さまの声のもとに、利便性の向上に取り組んでまいります。

●受付から診察までの待ち時間

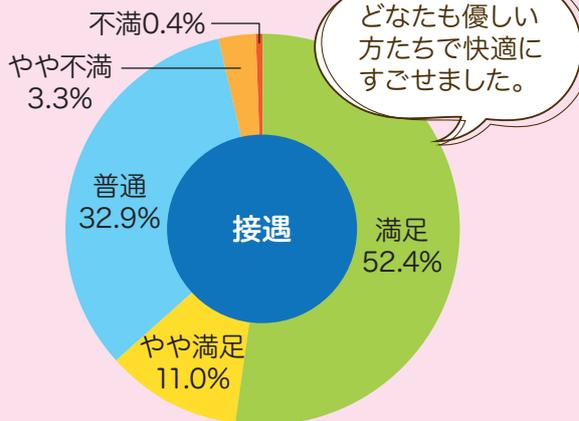
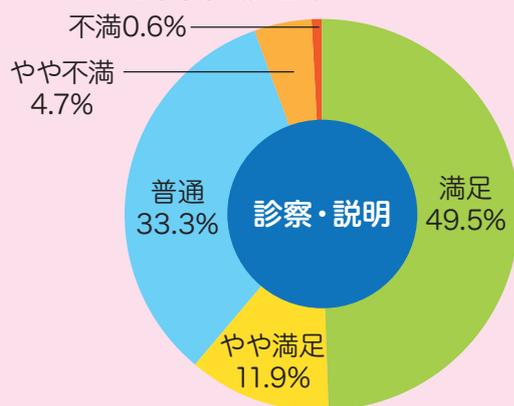


●会計までの待ち時間

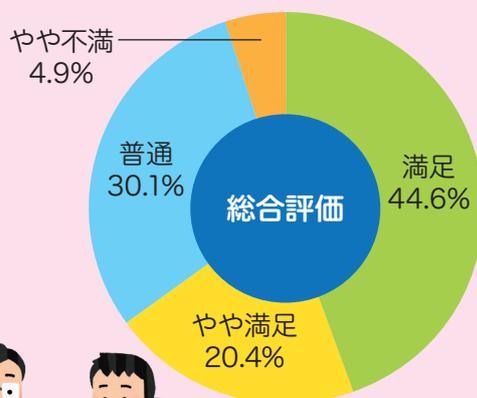


入院

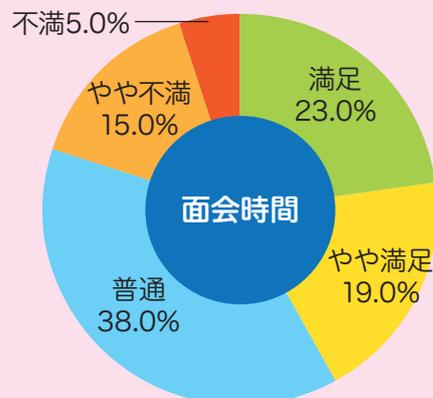
●職員の接遇等について



●総合評価



●面会時間



アンケート調査時の面会制限の状況
面会時間：平日 13:30～16:00間の10分以内

その他のご意見（外来・入院）

- 近くに公立の総合病院があることに感謝しています。
- 付き添いで来ていますが、皆さんが親切でこの病院で私も診てもらいたいくらいです。
- 曜日によっては診察のない科があることが残念です。
- 面会時間や曜日を柔軟に対応してほしい。

いろいろなご意見をありがとうございました。

アンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございます。
皆さまからいただきましたご要望に基づき、満足度の低いところの改善を図り、「皆さまに愛される病院」を目指してまいります。
今後ともよろしく願いいたします。

病院長

介護老人保健施設 「みつぎの苑」(一般棟)

みつぎの苑一般棟では、利用者さまの状態に合わせた活動を行っています。主な活動内容は、書道や毎月のカレンダー作成、ちぎり絵やきめこみなどの手先を使う細かい作業です。また、季節を感じることができる活動として、利用者さまに馴染みのあるおやつ作りや中庭での野菜づくりを行っています。これらの活動を通して、利用者さま同士、あるいは職員との会話がはずみ、笑顔が見られ、楽しい時間を過ごしていただいています。

カラオケなどのグループ活動においては、長い時間座ることが難しいため参加しづらい利用者さまも、その場で歌を口ずさんで音楽を楽しまれており、「カラオケがよかった」「また参加したい」と話されていました。音楽に集中されて楽しく参加されていた様子をご家族にお伝えしたところ、「なかなか会えないので、楽しく過ごしているお話が聞けてよかったです」と笑顔で話され、ホッとされた様子でした。



今後も介護、看護、リハビリなど様々な専門職と力を合わせて相談しながら、利用者さまのことに合わせた活動を通して、生活を支援していきます。

今後も介護、看護、リハビリなど様々な専門職と力を合わせて相談しながら、利用者さまのことに合わせた活動を通して、生活を支援していきます。

グループホーム「かえで」

グループホーム「かえで」では、入居者さまと一年を通じていろいろな行事を行っています。コロナ禍では外出が難しい時期もありましたが、少しずつ年間行事を再開できるようになりました。今回、気候の良い時期にドライブを計画しました。

4月は圓鑿記念公園にお花見に出かけました。天候もよく、桜の花を間近でご覧になり、春を感じていただくことができました。帰りの車内では、「きれいじゃったね」「楽しかったね」と会話がはずんでいました。



7月は世羅夢吊橋に出かけました。暑さが心配でしたが、曇り空で暑さも和らいだ良い一日となり、車内では「どこに行くんじゃろう」と嬉しそうな会話が聞こえてきました。到着後は夢吊橋まで、景色を見ながら車椅子や老人車で移動しました。自然に囲まれて気分転換となり、楽しい時間を過ごしていただくことができました。「また、来たいね」と話される笑顔は、とても印象的でした。

今後も入居者さまの思いに寄り添いながら、馴染みのある季節の行事や外出行事を計画し、取り組んでいきたいと思っております。

職員の紹介

私は公立みつぎ総合病院に就職して11年目になります。一般病棟を経験して現在は回復期リハビリテーション病棟の7A病棟で働いています。回復期病棟は一般病棟とは違うこともあり、日常生活動作の評価などまだまだわからないことも多く皆さまに迷惑をかけることもありますが、日々頑張っています。私の楽しみは推し活でライブやイベントに出掛けることです。推しは仕事の活力です。働くことは時に辛いこともありますが、患者さまが元気に退院されていく姿を見られるのは嬉しく思います。これからも、職場の先輩や同僚たちと一緒に優しさと思いやりの心を持って患者さまと接していきたいと思ひます。



看護師
ふじい ゆうき
藤井 優貴

私は4月から当院に入職し、透析室に配属になりました。以前は、個人のクリニックに勤めていました。クリニックでは透析に長く携わってきましたが、透析しかしていなかったのがクリニックでは出来なかった臨床工学技士の業務をしたいと思ひ、公立みつぎ総合病院へ転職しました。



臨床工学技士
やまぐち あきたか
山口 朗誉

当院では医療機器管理やカテーテル業務、高圧酸素療法、手術室関連など臨床工学技士が携わっている業務が以前の職場よりも多く、待機などもあり不安な気持ちもありますが他職種の方々とコミュニケーションを大切に、日々の業務を通してたくさん学んでいきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

公立みつぎ総合病院に入職し、3年が経とうとしています。私が配属されたのは、みつぎの苑認知症専門棟です。認知症の方との関わりが多く、不安を感じられる方には目線を合わせ、話を傾聴するなど、基本を大切にしながら関わることで利用者さまに安心を提供できるよう心がけております。



介護福祉士
うちこし あいき
打越 愛樹

私は成長がゆっくりで、うっかりすることもあります。先輩職員の皆さんに支えていただきながら日々の業務に励んでおります。これからも知識や経験を積んで、早く先輩方と同じ土俵に立ち、一人の介護福祉士として、利用者さまに信頼していただけるように精進してまいりますので、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

ちなみに私は苔に興味があり、苔テラリウムを制作していました。ヒノキゴケやホウオウゴケ、カサゴケ等が好きです。苔に興味がある方はどうぞ、私、打越までお問い合わせください。

入職して3年目となり、現在は施設資材課へ所属しています。主な業務は物品管理です。問い合わせがあればすぐに現場に向い対応しています。要望に沿った物品を取り寄せることが出来るよう状況把握や採寸をしたりと、現場で身体を動かすことが多く、席を離れることも多くあります。他部署に顔を出す機会が多いことから、職員の皆さんに顔を覚えてもらえ、通りすがりに声をかけていただき、日々明るくやりがいをもって業務をしています。



主事
おおにた しょう
大仁田 翔

まだまだ未熟でご迷惑をかけることもありますが、精一杯努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

第40回

尾道市御調地区健康福祉展

10月26日(土)公立みつぎ総合病院、御調保健福祉センター、みつぎいきいきセンターを会場に開催し、多くの来場者でにぎわいました。



記念講演会
ウエルシアホールディングス
代表取締役会長 池野隆光氏



ふれあいステージ



みつぎマルシェ



コソコソ健康増進号「骨密度測定」



子どもコーナー (ぼかぼか★みつぎ)
ミニコンサート



フレイル予防「活力年齢測定」



看護体験コーナー「未来の看護師さん」



歯科コーナー「フッ素塗布」



健康管理部コーナー「健康診断相談など」



薬局のお仕事「調剤体験」

ご意見、ご感想をお聞かせください

お問い合わせ先：地域包括ケア連携室 TEL 0848-77-0955 FAX 0848-77-0956
E-mail: tiiki@mitsugibyouin.com ホームページは「みつぎ病院」で検索
発行：尾道市立総合医療センター 公立みつぎ総合病院 広報誌編集委員会